

読者の声

早急なる教育改革を

学生 大阪府・男性(21)

■私は戦後の日本と云うものがどうしても好きになれない。決して戦中に於いてアジア諸国へ侵攻し、暴虐の限りを尽くしたという自虐史観からではない。外国軍隊が駐留する現実を民衆は黙認したからである。何故、祖国を己の手で護らず、国難あれば他国を頼ろうとする他力本願や、逃げるといふ腰抜け思考を持つようになったのか。そこには日教組を始めとした反日勢力の影響が大きいと考えらる。大義の為に殉ずることを「犬死」とするような考

えを徹底して幼少期から刷り込んだ結果に他ならぬ。高等教育に於いては西欧崇拝的教育を行っている。西洋哲学、法制度等を主として学ばせ社会へと送り出す。この様な現状では日本的な思想を養い、国体を護持するのは不可能である。いつまで教育現場、文科省は反日勢力にペコペコし続けるのか。国家を大きな家として、教育勅語に則った教育、国学や民俗学、正しい歴史教育を学ぶ機会を与える新たな教育機関が早急に必要であると私は考える。

誤魔化すのは、もうやめませんか？

無職 東京都・男性(69)

■どうしても分からないことがあります。憲法つて必要なのか？ という疑問です。憲法で軍隊と「その他の戦力」と交戦権を禁じ、威嚇でさえも放棄していません。しかし実際には個別的自衛権と自衛隊と「その他の戦力」を有し、在日米軍の駐留で集団的自衛権も事実上行使しています。解釈で誤魔化し、憲法違反を堂々と犯すくらいなら、いっそのこと憲法を破棄してしまえばいいのと思えます。日本は独立国です。まるでアメリカの属国だ、植民地だ、と思うのは自由ですが、世界各国は日本を独立国として認めています。しかも、主権は国民にあるのです。主権在民を保障する憲法ですから、「いらぬ」という主権者の判断を憲法自らが否定したり排除したりすることなどないはず。日本が「戦いません」と言ったって、攻撃されたら戦うしかありません。日本が北朝鮮あたりに「いい加減にしないと攻撃するぞ」と言ったって、欧米諸国から「ダメ！」と睨まれたら手が出せません。いずれにせよ、憲法は単なる基準であって、国家の存亡と国民の意思や本能をコントロールできるはずがないのです。誤魔化し続けるのはもう御免です。

ベルギー人の国の守り方

会社員 横浜市・男性(56)

■「日本が大好き」と言うベルギー人男性とひよんなことで知り合い、彼からヨーロッパのことを教えてもらったり、私が日本のことを教えてあげたり、二人で楽しい時間を過ごしていた時のことでした。彼が「日本人は優しいよね」と言った後に「日本の憲法も素晴らしい」と言ったのです。私が「日本の憲法が？」と聞き返したら、「戦争をしないと書いてあるなんて素晴らしいじゃないか」と言うのです。私は少し考えた後、「戦争は誰だつてイヤですものね。でもね、どこかの国の軍隊が日本を侵略しようとして攻めてきても、

その憲法があるから、日本人は自分の国を守るために戦えません。それでも素晴らしいですか？」と質問しました。そうしたら、「それは良くない」と彼は即座に答えたのです。聞けば、彼はホームステイで過去に七年ほど日本の一般家庭に滞在し、様々なボランティア活動に参加した経験があるそうで、そうした中で知り合った人々から「戦争を放棄した日本の憲法は素晴らしい」と語って聞かされたそうです。そして彼は私に、「その話を聞いた時は『確かにその通りだ』と思っってしまったよ。でも、目の前に敵がいても戦争がで

きないなんてダメだ」と言い、続けて「ベルギーが同じことをしたら（日本と同じ憲法を制定したら）、すぐに侵略されて無くなっちゃうよ！」とテーブルを叩いて言いました。ベルギー人は、ロシア語、フランス語、イタリヤ語、ドイツ語、英語など、いくつもの言語が普通に話せるそうです。相手がどんな会話をしているのか、それを正確に把握

することでも外敵の侵攻を防ぎ、自国の独立を守ってきたのだそうです。「だから周辺諸国の言語が喋れるようになってなっちゃった。他の国の人にはそれを羨ましがりますが、周囲の国に怯えながら生きてきた証拠だから気持ちちは複雑だよ」と彼。護憲派の人は「日本国憲法の理念を世界に広げよう」と言いますが、それは非現実的な夢物語です。

「悪質ホストクラブ問題」に疑問

会社員 埼玉県・男性(55)

■いわゆる「悪質なホストクラブ」が問題視されています。報道によれば、警察庁の露木康浩長官がマスクミの取材に対して「卑劣な営業手法に対しては、徹底的にあらゆる法令を駆使し

て取り締まりをする」と述べたという。不思議な出来事です。ぼったくりバーならいざ知らず、高額な店だと知った上で自分の意思で足蹴く通った。そして楽しんで。だから約束された飲

食代を支払った。ここまでは何の問題もない話です。

問題視されたのは、女性客が高額な「売掛金（ツケ）」を支払うために売春をさせられるケースがあったからですが、それならばホストクラブが「悪質」呼ばわりされるのはなぜなのでしょう。政府は、警察による取締りに加え、女性の支援に取り組む方針を示しました。参議院内閣委員会で、立憲民主党の塩村文夏氏が「さまざまな法律はあるが適用できないものも多く、歯止めをかけるものが全くない状況だ」と述べ、政府の対応をただしました。これに対し、加藤男女共同参画担当大臣は「性的サービスの強要など犯罪となる行為にもつながっており、当事者だ

けでは解決しがたい深刻な問題だ」と述べ、「警察による取締りなどに加え、困難に直面する女性たちが相談し、必要な支援につながる環境を整備することも重要だ」とし、関係省庁と連携して女性の支援に取り組む考えを示しました。どのような支援をするのか、じっくりと観察しようと思えますが、しかし売春が問題ならば、焦点を当てるべきはその若い女性の家庭環境であり、買春という犯罪を平気で犯す成人男性の存在ではないでしょうか。たとえホストクラブが一扫されたとしても、きつと売春と買春はなくなりません。この騒動の問題点はホストクラブの存在ではないと思います。

山積する「問題」について

自営業 埼玉県・男性(55)

■新聞や雑誌などを読んでみると、「問題」つてたくさんあるんだなあ、とある意味で感心させられる。人それぞれ抱える問題も違し、関心を持つことも違う。だからつまり人の数だけ問題があるということなのだろう。だもの、国が抱える問題など何一つ解決しないわけである。「問題」を「出題」させられたなら「回答」を出さなければいけないのだが、いわゆる「社会問題」や「領土問題」、「憲法問題」などには誰も回答しない。ということは、問題、問題、と言っているけれども、ただ言っているだけで「回答」を要する「出題」とは誰も捉えていないのである。解決するつもりがないのだ。ならば「問題」と言うべきではない。例えば、北方領土に関心がないのなら「領土問題」と言わないことだ。問題と捉えるなら、ロシアに返還してもらうためにどうしたらいいと思うか自分なりの回答を示すべきで、ロシアとの返還交渉など何もしない政治家の批判だけしているのは野次馬のすることである。比べてしまったら現代人には酷だが、幕末の志士たちは口にした問題には行動で回答を示した。そういう人間になるよう心掛けるべきである。